

検討会の主な論点について

奄美地域の現状を幅広い観点からとらえ、今後、自然資源を保全し、活用していくための基本的な考え方を提言としてとりまとめていただきたい。現時点では以下のような論点が考えられる。

1. 奄美地域の現状をどのようにとらえるべきか。

奄美地域の現状について、自然資源の保全・活用にとってのプラス面、マイナス面等についてご意見をいただきたい。なお、自然環境に関することのみならず、社会経済や歴史、文化などについても広くご議論いただきたい。

2. 奄美地域の保全・活用すべき資源は何が考えられるか。

保全・活用すべき自然資源について、資源タイプごと（照葉樹林、河川、海（海岸、海中）、自然資源と密接に関わる歴史や文化など）のみならず、島ごと（奄美大島、徳之島、喜界島、沖永良部島、与論島）に着目すべき資源などについてご議論いただきたい。

3. 奄美地域の自然資源をどのように保全・活用していくべきか。

豊かな生物相やすぐれた景観を有し、世界自然遺産候補地として選定されている奄美地域の自然資源は、人々の生活や文化とともに維持されてきた。この世界的な価値を有する自然資源を将来に引き継ぐためには、法的な規制の適用等により必要な保護を図ると同時に、地域社会との共生に留意し、持続的な利用を行っていく必要がある。

自然公園法に基づく国立公園は、我が国のすぐれた自然の風景地の保護と利用の推進を目的とした制度であり、奄美地域の自然資源を保全しつつ、持続的に活用していくための制度として効果的であると考えている。

国立公園制度を活用して奄美地域の自然資源を保全・活用していくとすれば、どのような姿を目指してどのような地域を指定し、どのように管理運営していく必要があるのかについてご議論いただきたい。以下に、現時点で想定しているテーマを挙げる。

（1）伝統的な自然資源との関わり方をどうとらえるか

地域の文化の中では、薪炭材を採取したり、大島紬の染料にシャリンバイを使ったり、また、山の神信仰が根付き、ケムムの存在が信じられているなど、伝統的に自然資源との関わりを持ってきた歴史がある。その関わり方をどうとらえ、今後はどう発展させていくのがよいか。

また、それを国立公園の指定や管理運営方法に反映させる上での留意点についてご意見をいただきたい。

(2) 自然資源を活用した産業としての林業のあり方

奄美大島では、古くから林業が行われており、林業が行われつつも固有動植物種が生息・生育していることから、自然環境や景観保全と林業の共存可能性があると考えられる。照葉樹林における林業と自然環境や景観保全の共存可能性とその具体的な方策等についてご議論いただきたい。

また、それを国立公園の指定や管理運営方法に反映させる上での留意点についてご意見をいただきたい。

(3) 自然資源を活用した観光産業の展開の方向性

世界自然遺産登録が実現すれば、観光客の増加等による地域社会の変化が見込まれる。その前に奄美の目指すべき観光産業の方向性を明確にしておく必要があると考えられる。観光産業の展開方法等についてご議論いただきたい。

また、それを国立公園の指定や管理運営方法に反映させる上での留意点についてご意見をいただきたい。